

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム朝里 いろどりの家2階	評価実施年月日	平成21年2月20日～28日
評価実施構成員氏名	田中 博美、吉積 永子、谷口 雪菜、佐藤 久美子、安田 真由美、中村 恵美子、高柳 春代		
記録者氏名	東海林 圭祐	記録年月日	平成21年3月12日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	理念を玄関入り口、各フロアに提示し目に触れる所に掲げている。		
<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念は頭にあっても、実践に向けての取り組みは不足している	○	話し合いの機会を設けて実践に向けての手段の検討
<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らしていることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族に対しては、入居時に説明しています。地域の方には運営推進会議を通し当ホームの理念をお伝えしています。	○	地域の方との交流を増やしより良い理念の浸透を図る
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	出勤時、挨拶を交わしたり、近所の方が畑の草取り、苗の世話を下さったりしながら入居者様と交流して頂いています。見学受け入れ態勢は随時行っています		
<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入し、地域活動の声かけを受けています。	○	小学校や幼稚園との交流を検討する
<input type="checkbox"/> 事業者の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	介護苦情相談窓口の案内を玄関に掲げているが、成果としてはまだない状態である。	○	地域貢献出来る事についての説明や話し合いの場を設けてみる

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>職員全員で自己評価を行い、外部評価の結果を職員に伝え、いつでも読める様にして、改善点を会議等で協議しながら、改善に努めていますが、行う事への意義・理解の認識には個人差がある</p>	○	問題点について全員で話し合い検討するように努める
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>特定の個人名を上げての取り組み、状況等についての話し合いは行っていませんが、高齢者についての地域の方の試み等、自宅での介護方法など話し合いホームにて実践出来そうな事はサービス向上に活かしています。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>市から送られてくる情報を元にホーム全体で吟味しサービスの質の向上に取り組んでいます。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>職員の中で成年後見人制度について学び、必要な方にはそれを活用するよう支援していますが、より知識の習得と活用に関して現状は支援不足である。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>コミュニケーションを大切にし、職員一人一人が孤立しない様、ホーム内で虐待出ない様に努めています。ただ、良かれと思ってもそれが精神的な虐待になっていないか、常に意識して話しあっていく必要は強く感じている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>入居時に重要事項、契約書の説明を行っています。家族様の疑問等について、その都度説明を行い理解して頂く様にし、不安な事が無い様にしています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居時に外部の苦情窓口の説明を行い、重要事項説明書にも記載しています。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月入居者様の暮らしぶりを受け持ちの職員がノートに記入し報告出来る様になっていますが、ホームの統一性をもたせるため、請求書と一緒に手紙を送り報告する形に変更予定です。身体状況の変化などは電話連絡や、来訪時に伝えていきます。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を玄関に設置し、家族様からの意見、不満等を表せる様にしています。又それらの意見は運営に反映出来る様にしています。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月1～2回各ユニットで会議を開いています。その際職員の意見、提案を皆で話し合いホーム運営に活かしています。ただ、不満や苦情は言いづらい部分もあるので把握しきれない可能性もある		二階フロアの職員は管理者との交流の機会も少なく意見の交換できる機会を増やしたい
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	必要最低限の人員確保は調整できても、スタッフ欠勤時などは、少なからずスタッフの負担が増えたり、入居者に不便をきたすことがある。	○	個人の能力アップを図る
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職による利用者への配慮は行っていない	○	離職者が減少できる環境作りは必要。十分な話し合いの場を設けることも必要

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>外部研修や当法人の学習会を利用し、その職員のレベルに応じた研修を受ける機会を持っていますが、個々の能力には格差がある。</p>	<p>○</p> <p>事業者内での研修の場の確保</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>ホーム全体では、同業者との交流は持っていないが、職員や支援専門員が外部より情報を得て来て、当ホームにて活用出来そうな事は、職員間で話し合いサービスの質が向上出来る様に取り組んでいます。又管理者はグループホーム協議会に出席し、他グループホーム職員との交流を持っています。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>管理者は、職員の悩みを出来るだけ聞く様にしています。 又4週8休の定休以外に夏休み2日間の休暇もあり、リフレッシュ出来る様に取り組んでいます。</p>	<p>○</p> <p>管理者とより気軽に話せる場の確保</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>努力や実績により表彰制度を設けています。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>相談は家族の方からの相談が主で、入居に際して利用者本人から困り事の相談はありません。入居直後は利用者本人と向き合い意見を受けとめるよう努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>相談時より家族様が困っている事等、聴く機会を持ちいつでも受けとめる努力を心かけています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホームは入居してからサービスが開始する為、相談を受けた「その時」に必要としている支援は提供する事は出来ません。只、今この様にされた方が良いのではないかな等の助言は行い居宅のケアマネとの相談も進めています。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	グループホームは入居されてからサービスが開始する為、馴染みながらのサービスの提供は行っていません。只入居する前はホームの見学をして頂いています。又入居者様がホームに慣れて頂ける様、ご家族の協力を頂いています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者様は人生の先輩でもある為、日々の生活の中で教えてもらう事も多々あります。又一緒に過ごす中で人間対人間の関係を築く様にしており、入居者同士の支えあう環境になっている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様にもホームの行事を伝えて参加出来るときには参加していただいている。入居者様の状態に関しては、ご家族様と一緒に考えていける関係を築いている		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居者様のホームでの暮らしや、職員が発見した意外な事などをご家族様に伝えたり連絡ノートを活用してより良い関係が築ける様に支援しています。	○	連絡ノートを変更してホーム便りを毎月送付する
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者様が望んだ場合、馴染みの人達との関係が途切れないように支援しています。又ホームに友人の訪問もあり居室でくつろげるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居されている方の認知レベルを考慮しながら、入居者間の関わりを持って頂いています。又ご本人同士が楽しめるレクリエーションやホーム内のお手伝いをして頂き、一緒に生活をしているという意識を持てる様に努めています。積極的な方も多く、入居者同士の居室への来室などの交流の姿もあり		共同作業が苦手な方への関わり方
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	継続的な関係を望んでいる家族様とは関係を断ち切らない様、お付き合いを行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人の意見や希望を可能な限り聞き入れ意向の把握に努めています。		本人本位が身体的に影響がある時の対応や共同生活に少なからず支障がある時の支援
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に今までの生活歴を確認していますが、本人からの聞き取りが難しい場合や家族様が余り把握されてない場合があります。その為入居後より少しずつ思い出したかの様に話す場合もあるのでその様な方法で把握に努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居者様の毎日の行動などから一日の過ごし方を理解し、現在の有する状態の把握に努めています。スタッフ間での把握にばらつきもあり		入居者の情報をスタッフ間でのよりいっそうの共有
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	各入居者様の担当を決めて、その中から知りえた情報や生活の中から必要と思えるニーズを探し、アセスメントと職員間で話し合いを行いながら介護計画書を作成しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	日々の業務に追われ現状に即したプランの作成には至っていない。	○	最低限、期間内のプランを見直せるようにする
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランは毎日記入する事になっておりますが、現状に即したプランでない事もあり、良い結果に結びついていない事もあり。個別記録の情報は詳しく記入しているが情報の共有にはバラつきがある。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ホーム内での決り事はありませんが、入居者様、ご家族様の要望があれば支援を行うようにしている。不都合が生じた場合は都度相談している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	特に行っていません		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	今の所入居者様の意向はホーム内で完結されています。只情報として包括のケアマネにグループホームに入居されていてどの様なサービスを利用したら良いのか等の相談などは行っています。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	協働とまでは言えませんが、何かあった時は相談する様にしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	本人とご家族の希望を大切にしています。必要時はかかりつけ医と相談しています。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	今までも脳神経外科、精神科受診の支援を行ってきましたが、きちんとした認知症を理解し相談に乗ってくれる様な医師には会っておらず認知症に対する診断、治療を行っているとは思えません。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	常勤看護職との連携を土台に、系列病院の看護師に相談したり、医療連携で訪問する看護師にも相談し医療活用しています。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した場合安心して過ごせる様に必要な物の手配、家族様に連絡を行っています。又退院についてもなるべく早く情報を集めるよう病院関係者と話しあっています。		現状は管理職、支援専門員が中心になっているが、スタッフ間への情報伝達
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末期のあり方について入居時には本人、ご家族様と話し合ってはいませんが、医療連携を取って入る為、医療の必要性がなくなり自宅介護可能になった入居者様でご家族様が希望した場合ホームにて過ごせる様にしています。	○	チームケアの強化は必要
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	出来る、出来ない事の見極めをかかりつけ医や看護師に相談しどの様に対応したら良いのか助言を受けながら対応していますが、スタッフの意識や具体的な対応にまでは準備できていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入居者様の生活のリズムを情報として交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐ事に努めています。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>プライバシーのお話は居室内やセカンドスペースを利用してお話しする様にしています。しかし入居者様が満足行かない様な事も多々あると思われれます。記録等は鍵のかかる書庫内に保管しています。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>自己決定を尊重し納得出来る形での支援を行っているが、認知能力が低下した際の支援が不足している。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>本人のペースを優先した支援をしているが、生活リズムが崩れる可能性がある時は別の形での支援出来る様に心がけている</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>希望する方は近所の美容室を利用したり、本人、家族の要望を取り入れた身だしなみを支援している。外出の際などの化粧も可能な限り促しメリハリがつくようにしている</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>入居者様の出来る範囲で食事の準備、後片付けを手伝って頂いたり、食事が楽しくなる様に食事の盛り方を工夫しています。個人の好みのものは行事の際には確認しているが日常の献立への反映は不足している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	好みの食べ物など居室に置き、好きな時に食べれる環境。喫煙される入居者様は現在おらず、飲酒に関しては基本的には受け入れており、行事の際なども用意している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄のパターンは完全には掴みきれておらず。各入居者様に適した排泄を支援している。		より良い排泄支援の為、早めの対応にて気持ちよく生活していただく
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎回拒否される入居者様には無理のない程度に誘い気持ちよく入浴して頂いています。早朝や夜間の入浴希望者は現在いないが、勤務体制上実施は困難。毎日入浴は可能な状態だが、曜日を決めて欲しいと要望ある入居者様もいます。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	昼夜逆転や日常生活に支障がないように休息をとっていただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	日常生活でのお手伝いをさせていただいたり、皆で集まりカルタ取りなど実施しており、個々に適した生活を支援しております		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族の協力を得て、能力に応じた少額の金額は各入居者様が管理しています。概ね事務所での管理になっていますが、買い物など必要時には見守りを行っております。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	土地柄、冬期間の外出は困難だが、春～秋にかけては、買い物や散歩、洗濯物干し、畑の手入れなど外出の機会を設けています。ホーム駐車場でジンギスカンパーティなども実施。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	普段いけない所への外出は家族や知人の協力を得ている。レクリエーションを通じての外出もあり。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	必要時には家族の協力を得て電話をかけたり、手紙を頼まれた時はポストへ投函しております。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも訪問出来る様に支援しております		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はやむえない場合のみと理解しており、身体拘束は行っていません		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	階段での転倒事故があり二階フロアのみ施錠しております。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	障害物への注意を計らい、常に気づかい目配りをしています		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	自分で管理できる方は爪きり等保管していますが、身体状況を把握し危険がある際は保管と管理を行なっています		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	マニュアル作成し、都度の研修を通して事故防止に努めているが知識不足は否めない。より充実した職場研修や、マニュアル作成は必要と思われる		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	外部研修を利用し緊急時に備えているが、職員の習得技術はバラつきがある。事業所での定期的な訓練は実施されていないが、個々の対応に関しては適宜申し送り等を通じてスタッフ間での浸透を図っている		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	民生委員の方は適宜、グループホームに訪問して頂き理解深めて頂いています。地域の方に協力を得られる様な働きかけは行っていません。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	起こりうるリスクの説明をご家族様には行っています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	医療機関とも連携をとり、早期発見に努めているが医学的にも対応出来ない事も多い		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人ファイルの後ろに薬の説明書をはさめており、必要時職員がいつでも見れる様にしてあります。又新しい薬の服用が始まった場合変化の確認を行う様申し送りにて話しています。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘予防の為に水分補給を促したり、繊維質の食事を多く摂取出来る様に支援している歩行の機会を多く持つ事で身体を動かす		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の口腔ケアの促しを行い、状態に応じたケアを実践している。また、歯科往診での口腔ケアの実施とともに、歯科医によるケア指導も実践している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量のチェック、水分量を記載し入居者様の好みの物を進めたり、栄養バランスを考え一人一人の状態に合わせた支援をしています。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対しての対応取り決めがあり、毎日の清掃を適切に行ない感染症がまん延しない様取り組んでいます。実際に感染した場合は居室内で過ごしていただき他入居者様との距離をとらせていただいています		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材の先入れ先出しを行い食品が傷む前に使い切っている。週3回の食材発注は、近くの市場より配達して頂き、新鮮な食品を提供している。毎日、毎食後のフキン類の消毒を行い、毎晩の調理器具の消毒にて食中毒防止に努めている。週1回の冷蔵庫内の消毒も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	広いスペースの駐車場のため、面会時など出入りしやすい作りになっています。玄関は開放感があり、いつでも出入り出来る様に施錠もされていません。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビング等 壁に季節ごとのイベントの絵や飾り付けを行い居心地良く過ごせる様に工夫しています。入居者様の習字の展示は互いに作品を評価しあって好評です		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファや居室を利用され気の合った利用者同士の交流もあり、和室や廊下のベンチも一人になれる環境として利用されている		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人様の過ごしやすい環境を受け入れ、家具等自由に配置している。危険性がある場合は本人とご家族様を交えて相談しています		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	共用スペースは毎日2回温度、湿度チェックを記録し暮らしやすい環境作りに努めています。各居室に関しては、入居者様の希望を優先していることもあり換気が不十分な事もあります。	○	居室ないの換気を強化する必要がある
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	フロア内はバリアフリーの為段差も無く、手すりの設置と周囲を見渡せる空間のためスタッフが作業中でも安全に生活が送れるようになっている		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	日常生活においては見守りや声かけを行い、たとえ失敗しても混乱がなく笑顔で過ごせる支援をしている。トイレや各居室など混乱がある際は見守りと共に分かりやすい看板やネームプレートの設置で混乱を防いでいる		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	外回りには花を植えたり、横の畑には野菜を植え四季の移り変わりを感じられる様な空間作りを行っています。パラソルを置き屋外でも過ごしやすい様に工夫しています。また、窓から見える景色を楽しめるよう、身体をよしかかれる作りになっています。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない <input type="radio"/>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない <input type="radio"/>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない <input type="radio"/>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない <input type="radio"/>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない <input type="radio"/>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない <input type="radio"/>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない <input type="radio"/>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない <input type="radio"/>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない <input type="radio"/>

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p> <p style="text-align: center;">○</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p style="text-align: center;">○</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p style="text-align: center;">○</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p style="text-align: center;">○</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)